

「豊かな自然」を守る川づくり

多自然川づくり

多自然川づくりとは、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創生するために、河川管理を行うことを言います。



波多川



完成式では魚道の下流で
児童がアユの放流を行いました。

神戸川との合流点付近で落差が生じていたため、魚道を設置し上下流の移動性・連続性を確保しました。

河床に岩盤が露頭しており、これを無理に掘削せず、凹凸を利用して、多様な流れを創出しています。



出羽川

水際に植物が繁茂しており、良い河川環境が保全されています。



出羽川

河川浄化事業(松江堀川)

昭和50年代に水質汚濁が進行し、底泥からメタンガス等が発生する状況で、酸欠によりフナ等の魚の斃死も見られたため、河川浄化事業(底泥浚渫や宍道湖からの導水)が松江堀川で始まりました。平成8年度からは松江堀川全体で宍道湖からの導水を開始し徐々に水質が改善していきました。



「汽水の松江堀川」魅カアップ協議会

平成27年1月の「斐伊川水系宍道湖東域川づくり検討委員会」での「観光の視点を持った水環境の改善」「外来種の汽水環境の生態への悪影響の懸念」といった意見を受け、多様な汽水環境の保全・改善を目的として、国、県、松江市、民間団体に構成する『汽水の松江堀川』魅カアップ協議会を平成27年7月に設立しました。活動内容は河川課ホームページに掲載していますのでそちらをご覧ください。

『汽水の松江堀川』
魅カアップ協議会HP

<https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/river/kasen/link/>



一般参加の啓発イベント



緊急対策外来種
ミシシッピアカミミガメ



アカミミガメへの対策を行った結果、これまで見られなかったクサガメの甲羅干しが見られるようになりました